



# Good News for Japan **とぎのこえ**

平成二十九年一月一日発行  
昭和二十二年一月二十四日(第三種郵便物認可)

明治二十八年創刊 毎月一日・十五日発行

## 新たな愛による勝利を！ ケネス・メイナー



新年を迎える度に、わたしたちは新しい、希望に満ちた思いにされるものです。あなたは、今年、どんな新しいことをしたいですか？ わたしは、ぜひ、皆さんに「仲直り・和解」をお勧めしたいと思います。あなたの今までの人生で、壊れてしまっている人間関係はないでしょうか。その修復

のために、今年、何かできないでしょうか？ 傷ついた人々が他の人々を傷つける、という法則は、残念ながら世界共通のもの。誰かがあなたを傷つけるなら、それは、その人自身がかつて傷つけられた経験をしているからです。そして、優しさに欠けている人は、その人自身が優し

さを受けたことがなく、愛することのできない人は愛されていきません。乱暴さ、苦々しさや皮肉、意地の悪さ、傲慢な態度、そのような人々は、その行動一つひとつで、

「わたしは苦しんでいるんだ！ わたしは、尽きてしまうことのない愛に飢えているんだ！ わたしは怖れているんだ！」と叫び声をあげているのである。それに対して、安らぎと愛の中にある人々は、そのような態度を取らないものです。深い愛情と、心から安心できる環境に生きる人は、他の人々に対して寛大で、優しさに満ちたふるま

いをするのです。もし、あなたが、人々から何かを得ることだけを求めているとしたら、あなたの人生は苦々しさの連続となるでしょう。より良い人生を生きたためには、善良さによって醜悪なものを一掃することが必要です。ぜひ、愛によって応答しましょう。傷つける人々の言葉に、彼らは過去に傷つけられていたのだ、ということを理解しましょう。 エドウィン・マークムというアメリカの詩人は、こ

のように書いています。彼らは、境界線となる円を作り、わたしを閉め出した。 | まるでわたしが異端者、反逆者、軽蔑すべき者であるかのように。しかし、愛と機知によって、わたしは彼らに勝つたのだ。 彼らを包み込む、より大きな円を彼らの境界線の外に描くことによって

攻撃は攻撃しか生み出さず、怒りはより大きな怒りを招くだけだということを、わたしたちは人生経験の中から繰り返し学びます。そして、それが習慣にさえなってしまうのです。 では、どのようにすれば、和解できるのでしょうか。単にあなたが怒りの思いを捨て去るだけでは何の解決にもなりません。きつとその思いは再び湧き上がるからです。その怒りを手放し、神にゆだねることが大切で、神だけが、傷つき、壊れた心を修復することのできる方だからです。神は、

独り子イエス・キリストを私たちに与えてくださいました。それは、イエス・キリストによって、わたしたちが、すべての傷から癒されるためでした。 聖書は、教えています。 「御父がどれほどわたしたちを愛してくださるか、考えなさい。それは、わたしたちが神の子と呼ばれるほどで、事実また、そのとおりです。世がわたしたちを知らないのは、御父を知らなかったからです。」(ヨハネの手紙1 3章1節) あなたが、イエスの愛によって、あなたを傷つける人々を赦せるように、神は、まず、あなた自身を癒してください。イエスの愛を受け取ることによって、あなたは、怒りや支配欲から生じる苦しみを解放されるのです。 新しい年、皆さんお一人おひとりが、イエスの愛によって癒され、様々な人間関係の中に和解を見ることができましよう、お祈りいたします。

謹んで被災された方々にお見舞いを申し上げます。一日も早い心の平安の回復と、被災地の復興をお祈り申し上げます。

(救世軍士官伝道者・司令官)

# 一枚のポストカードから



小池 航太

私は、父も母もクリスチャンではない、日本ではごく一般的な家庭で育ちました。親戚にもクリスチャンはいなかったため、小さいころからクリスト教に触れる機会はありませんでした。小学生の頃は、友人や家族の勧めで、近くのお寺の子ども会に参加し、写経をしたり、お経を読んだりすることもありました。

中高もキリスト教系の学校ではなかったため、ずっと神様を知らずに少年期を過ごしていました。ただ、中高生の頃は、たくさんのファンタジー小説を読んでいました。ファンタジー小説とは、魔法・騎士・妖精・ドラゴンなどが出てくる小説です。その影響からか、小説のモデルとなっている西洋世界に漠然と関心を持ち、大学では西洋史を学びました。そのような生活を送る中

また、私にとつても、初めて新しい家族を亡くすという経験だったため、悲しみに暮れました。

祖母は、「痛みを伴う治療を無理にしないでよい」と希望し、ホスピスに入ることにしました。病院で

で、私が神様を知るきっかけになったのは、大学生の頃、ある展覧会で見た一枚の絵でした。それは、ウィリアム・ホルマン・ハントという画家が描いた「世の光」という絵でした。これは、ランプを持ったイエスが、戸口に立って、ドアをノックしている場面を描いたものです。普段、展覧会に行つて、パンフレットやポスターを買つたりすることはないので、この時は、なんとなくこの絵が気に入り、そのポストカードを買いました。そして、プラスチックの写真立てに入れて机の上に飾りました。

この絵を飾つてから十年以上経つた時、私は祖母を亡くしました。祖母は山登りや海外旅行を趣味にしていて、元氣そのものだったので、がんが見つかり、「余命三カ月」と言われた時、家族はとてとまどいました。

「見よ、わたしは戸口に立つて、たたいている。だれかわたしの声を聞いて戸を開ける者があれば、わたしは中に入つてその者と共に食事をし、彼もまた、わたしと共に食事をするのである」という一節を表していたのです。神の子イエスは、

家の主人が自分からドアを開けて迎え入れてくれるまで、忍耐強く待つておられる、無理やりではなく、それでいてあきらめずに語りかけてくださっている、ということがわかりました。

この絵の意味を知つた時、イエス様は、ポストカードを机に飾つた時から、ずっと私の心に呼びかけてくれたのだ」と気づきました。私は、心から感謝して心の戸を開き、イエス様を迎え(救い主として信じ)ました。そして、昨年十月におこなわれた救世軍全国大会で、兵士入隊式(正式に救世軍の信徒となる儀式。救世軍では信徒のことを「兵士」と呼ぶ)に臨むことができました。

今でも机の上に、「世の光」の絵が飾つてあります。私は教員をしています。イエス様のように忍耐強くなれず、生徒を叱ることもあります。その度に、机の上のイエス様を見て、反省するのです。これからもイエス様と共に食卓を囲み、聖書の言葉という食事をいただいたい、と思つていきます。(渋谷小隊所属)

# 自分の欠点に悩む日々から



春日谷 真己

私は、現在、救世軍の社会福祉施設で、支援員として働いており、仕事を通し、神様から様々な恵みをいただいております。

私には、自分の思うとおりに人を納得させようという、自分の都合で話をする、という欠点があります。相手の状況を考えないで物を頼んだり、相手の言い分を聞かずに一方的に責めてしまうことがよくあるのです。

こちらの都合だけで相手のことを考えずにあれこれお願いをすれば、相手は反発します。規則を破つたからと、ただ頭ごなしに咎めただけでは、相手は反省もせず、行動を改めることもありません。そんな相手からの反応を感じる度に、悩む日々が続きました。それで、近くにある清瀬小隊に行きようになりました。礼拝でメッセージを聞き、聖書を学ぶうち、神様は大切なことを気づかせてくださっていました。

聖書に、「人を裁くな。あなたがたも裁かれないようにするためである」(マタイによる福音書7章1節)、また、「全財産を貧しい人々のために使い尽くそうとも、誇ろうとしてわが身を死に引き渡そうとも、愛がなければ、わたしに何の益もない」(コリントの信徒への手紙一 13章3節)

とあります。愛をもって接すること、そのことがまさに私に欠けていることでした。それは、自分の大切にしているものを差し出すことです。私の場合、大切にしているものは、「周りから評価されたい」「職員としてしっかりとやらなくてはならない」という、自己中心的な思いでした。その思いを離れ、その方がどうしてそのようなことをするに至つたか、気持ちの向かい、その上でどうしていくかを考えることが、愛の実践だった

(次ページ5段目に続く)

## 〈信仰の体験談〉

# 救い主イエス様に出会いました!

# 道をたずね求める中から



野村しげ子

私は、キリスト教に縁のない家で生まれ育ちました。結婚した夫ももちろん、キリスト教とは無関係でした。やがて、二人の娘が与えられました。長女が、赤ん坊の頃の授乳中の事故が原因で、寝たきりになってしまいました。それがきっかけで、私は心の拠り所を求め、様々な宗教に関わりをもつようになりました。

何十年の間、道をたずね求める中で、キリスト教が最も良いと思うようになりました。けれども、幾つかの教会に出席してみたのですが、教会の雰囲気になじめず、長続きすることはありませんでした。私の家の近くに救世軍桐生小隊(教会にあたる)がありましたが、そこに行く決心もつきませんでした。

それです、キリスト教放送の聖書通信講座を受け、教会に行く代わりに、個人的に聖書を学ぶようになりました。けれども、教会に行きたいという願いはなくな

らず、むしろ、ますます強くなっていきました。そんな時、二〇一三年十一月、私の自宅ポストに、救世軍の伝道機関紙『ときのこえ』が入っていたのです。その時の私は、まだ本気で聖書の神様を信じていたわけではなかったのですが、神様は私の心の願いをご存じで、『ときのこえ』を送ってくださったのだ、と思えました。すぐに『ときのこえ』にあつた通信欄を切り取り、住所と名前を書いて、桐生小隊に送りました。

すると間もなく、優しいうな二人の土官(伝道者)の方が家に訪ねて来られ、日曜日の聖別会(礼拝)の案内をしてくださいました。そこで勧めに従い、その翌週、桐生小隊の聖別会に出席しました。

初めて桐生小隊の集会に行つた時、小隊の方々は、まるで旧知の家族のように温かく迎えてくださいました。優しい笑顔と親しい態度に、私はこの教会なら大丈夫だ、とすぐに確信しました。

その後は、日曜日の聖別会はもちろん、家庭団という女性の集まりや聖書の学び会に、かかさず出席するようにになりました。そして、まず、家庭団の団員(公員)となり、神の子イエス様を救い主と信じる決心をして、救世軍の信徒となるための学びをするようになりました。そして、一昨年のクリスマスサンデーに、兵士となることができました。

先に記しましたように、私には寝たきりの長女がいます。また、三人の小学生の孫たちも、それぞれ健康上の問題を抱えています。本来なら、神も仏もあるものか、という思いを抱くところでしょうが、そのことで心配に押しつぶされたり、絶望したりすることはありません。桐生小隊の信徒の中に、同じ病気のお子さんをもっている方がいたり、また障がい児教育を専門とする教師の方がいたりして、良いアドバイスを受けることができています。

また、そんな中で示された聖書の御言葉があります。それは、コリントの信徒への手紙一 一〇章一三節で、このように書かれています。「あなたがたを襲つた

試練で、人間として耐えられないようなものはなかつたはずですよ。神は真実な方です。あなたがたを耐えられないような試練に遭わせることはなさらず、試練と共に、それに耐えられるよう、逃れる道をも備えていてくださいます。」

私はこの御言葉によつて、長女や孫たちの問題を肯定的に受け止めて、希望の中に毎日を過ごしています。

私は、桐生小隊の信徒の中で、小隊に一番近い所に住んでいます。ですから、救われた喜びを、会館やその周囲の清掃をすることで表しています。これは、私の日課となっています。

また、私が救われ、現在のような生活を送れるようになったきっかけは、『ときのこえ』が自宅に届いたことだったので、毎月、小隊長(牧師にあたる)にお願ひして、周辺の家々のポストに『ときのこえ』を配っています。この奉仕を通して、いつか誰かが、私と同じように、『ときのこえ』を通して、真の神を知り、喜びと平安が与えられるように、と願っています。

まだ、私の家族や親戚の中から、イエス・キリストを救い主と信じて救われた

「あなたは、兄弟の目に、あるおが屑は見えるのに、なぜ自分の目の中の丸太に気づかないのか。」(マタイによる福音書 7 章 3 節)

この聖書の言葉は、まさに私の姿を指していました。

ある時、利用者の方々の前で、自分の欠点を悔い改めていきたい、と話す機会がありました。すると、一人の方が、「あなたのように弱いところがあつても、何とか前に進もうと頑張っている人が必要なんですよ」と言ってくれました。

本当にありがたく、また励まされました。

二〇一四年の十二月二十三日、仕事で思い悩むことがあり、帰りに小隊に寄り

人はいません。救世軍に属する者として、これからも御言葉と共に、自分の姿でもつて、神様の愛を、イエス様による救いを、証しし続けたいと願っています。

(桐生小隊所属)

「あなたがたは、兄弟の目に、あるおが屑は見えるのに、なぜ自分の目の中の丸太に気づかないのか。」(マタイによる福音書 7 章 3 節)

この聖書の言葉は、まさに私の姿を指していました。

ある時、利用者の方々の前で、自分の欠点を悔い改めていきたい、と話す機会がありました。すると、一人の方が、「あなたのように弱いところがあつても、何とか前に進もうと頑張っている人が必要なんですよ」と言ってくれました。

本当にありがたく、また励まされました。

二〇一四年の十二月二十三日、仕事で思い悩むことがあり、帰りに小隊に寄り

人はいません。救世軍に属する者として、これからも御言葉と共に、自分の姿でもつて、神様の愛を、イエス様による救いを、証しし続けたいと願っています。

(桐生小隊所属)

「あなたがたは、兄弟の目に、あるおが屑は見えるのに、なぜ自分の目の中の丸太に気づかないのか。」(マタイによる福音書 7 章 3 節)

この聖書の言葉は、まさに私の姿を指していました。

ある時、利用者の方々の前で、自分の欠点を悔い改めていきたい、と話す機会がありました。すると、一人の方が、「あなたのように弱いところがあつても、何とか前に進もうと頑張っている人が必要なんですよ」と言ってくれました。

本当にありがたく、また励まされました。

二〇一四年の十二月二十三日、仕事で思い悩むことがあり、帰りに小隊に寄り

人はいません。救世軍に属する者として、これからも御言葉と共に、自分の姿でもつて、神様の愛を、イエス様による救いを、証しし続けたいと願っています。

(桐生小隊所属)

「あなたがたは、兄弟の目に、あるおが屑は見えるのに、なぜ自分の目の中の丸太に気づかないのか。」(マタイによる福音書 7 章 3 節)

この聖書の言葉は、まさに私の姿を指していました。

ある時、利用者の方々の前で、自分の欠点を悔い改めていきたい、と話す機会がありました。すると、一人の方が、「あなたのように弱いところがあつても、何とか前に進もうと頑張っている人が必要なんですよ」と言ってくれました。

本当にありがたく、また励まされました。

二〇一四年の十二月二十三日、仕事で思い悩むことがあり、帰りに小隊に寄り

人はいません。救世軍に属する者として、これからも御言葉と共に、自分の姿でもつて、神様の愛を、イエス様による救いを、証しし続けたいと願っています。

(桐生小隊所属)

「あなたがたは、兄弟の目に、あるおが屑は見えるのに、なぜ自分の目の中の丸太に気づかないのか。」(マタイによる福音書 7 章 3 節)

この聖書の言葉は、まさに私の姿を指していました。

ある時、利用者の方々の前で、自分の欠点を悔い改めていきたい、と話す機会がありました。すると、一人の方が、「あなたのように弱いところがあつても、何とか前に進もうと頑張っている人が必要なんですよ」と言ってくれました。

本当にありがたく、また励まされました。

二〇一四年の十二月二十三日、仕事で思い悩むことがあり、帰りに小隊に寄り

人はいません。救世軍に属する者として、これからも御言葉と共に、自分の姿でもつて、神様の愛を、イエス様による救いを、証しし続けたいと願っています。

(桐生小隊所属)

裏  
この部分を封書か葉書に貼り、面下の救世軍にお送りください。

# 救世軍とは

The Salvation Army

国際的なプロテスタントのキリスト教会で、聖書に示された唯一の神を信じています。そのモットーは、「心は神に、手は人に」です。人々の必要に応えながら神の愛を伝えていきます。

創立は一八六五年。英国のメソジスト教会の牧師だつたウィリアム・ブースが、東ロンドンのスラム街で働きを始めました。彼は、当時の社会の最下層にいる人々に、一番必要としているもの―温かい食べ物、清潔な衣類、宿泊所、また教育などの提供をおこない、物心両面からの救いを目指しました。やがて、より多くの人々や社会



ウィリアム・ブースが、東ロンドンのスラム街で働きを始めました。

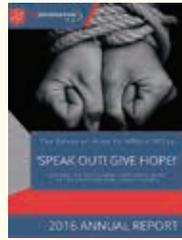
## 社会鍋募金へのご協力、ありがとうございました

昨年12月、全国主要都市でおこなわれました。皆様から寄せられた寄付金は、各地の救世軍小隊を通して、様々な困難を覚えている方々や街頭生活者への支援、また国内外の災害被災者支援などに用いさせていただきます。皆様のご協力に心からの御礼を申し上げます。



### ☆救世軍社会鍋俳句コンテスト

募集内容: 社会鍋を題材にした未発表作品  
提出物: 一人2句まで  
応募方法: 封書での郵送、ファックス送付、または救世軍ホームページ応募フォームのいずれかで投稿(ハガキは不可)  
(詳細は、下記の「救世軍社会鍋俳句コンテスト」係までお問い合わせください)  
応募資格: 不問  
費用: なし  
締め切り: 2017年3月31日(消印有効)  
賞: 優秀賞1句、ほのほの賞3句他  
結果発表: 『ときのこえ』2017年5月15日号、6月1日号紙上及び公式ホームページ  
選者: 三浦喜代子氏(日本クリスチャン・ペンクラブ代表、「ひまわり文章塾」主宰)他  
著作権: 応募作品の著作権は救世軍に帰属  
送り先: 〒101-0051 東京都千代田区神田神保町2-17 救世軍本営「救世軍社会鍋俳句コンテスト」係  
Tel 03-3237-0881 Fax 03-3237-3588



人身取引の被害者(ヨーロッパ)の活動報告誌

現在は、時代と共に変化してきた様々な社会の必要にこたえる働きを進めながら、四十三の小隊(教会にあたる)を

十二の分隊(伝道所にあたる)の推進なども、積極的にこなっています。日本での働きは、一八九五(明治28)年に、ブースによって派遣された士官(伝道者たち)によって始められました。日本人最初の士官となつたのは山室軍平です。だれにでもわかりやすい説教と、『平民の福音』、『民衆の聖書』などの著書、機関紙への執筆でキリスト教を広めました。

その期間中、日本で救世軍の働きが始まって百二十年(二〇一五年)、毎年春におこなっている克己週間募金が百二十周年(二〇一六年)を迎えたことを記念し、チャリティーコンサートを開催しました。これまで救世軍を支援してくださった方を招待して、感謝を表すとともに、より一層救世軍を理解していただく時をもちました。

また、大会に合わせて来日した合唱団、アメリカ西部スタッフ・ソングスターズによるコンサートもおこなわれました。この大会に、各地から救世軍の信徒やその友人、知人などが集い、大きな祝福をいただきました。

海外での支援活動  
昨年十月初めにカリブ海の島々とアメリカ南東部沿岸を襲ったハリケーン「マシュー」の被害は甚大で、多くの犠牲者がでました。中でも、ハイチでは約二十万人が被災。支援は長期にわたるため、当時のコレラが流行していたため、衣食住の支援と共に、貧しい地域へのコレラ予防キットの配布などが緊急におこなわれました。バハマのグラランド・バハマ島における救世軍の働きは約三十年前からですが、現在、一組の救世軍士官が、島内の小隊と社会福祉の働きの責任のすべてを負っています。今回の被害を受けて、様々な団体と協力し、被災者を支援しました。

現在、百二十八の国と地域で救世軍の働きが進められています。どの国においても創立の精神は脈々と受け継がれています。街頭生活者の支援、厳しい境遇にある児童や女性の保護、高齢者の介護、アルコール依存症者の回復支援、災害被災者の支援などを通して、神の愛を届けています。また、国際的な協力体制の下、人身取引の被害者支援や開発途上国の人々の自立支援



山室軍平

クサ大将夫妻を迎え、全国大会をおこないました。その期間中、日本で救世軍の働きが始まって百二十年(二〇一五年)、毎年春におこなっている克己週間募金が百二十周年(二〇一六年)を迎えたことを記念し、チャリティーコンサートを開催しました。これまで救世軍を支援してくださった方を招待して、感謝を表すとともに、より一層救世軍を理解していただく時をもちました。

また、大会に合わせて来日した合唱団、アメリカ西部スタッフ・ソングスターズによるコンサートもおこなわれました。この大会に、各地から救世軍の信徒やその友人、知人などが集い、大きな祝福をいただきました。

海外での支援活動  
昨年十月初めにカリブ海の島々とアメリカ南東部沿岸を襲ったハリケーン「マシュー」の被害は甚大で、多くの犠牲者がでました。中でも、ハイチでは約二十万人が被災。支援は長期にわたるため、当時のコレラが流行していたため、衣食住の支援と共に、貧しい地域へのコレラ予防キットの配布などが緊急におこなわれました。バハマのグラランド・バハマ島における救世軍の働きは約三十年前からですが、現在、一組の救世軍士官が、島内の小隊と社会福祉の働きの責任のすべてを負っています。今回の被害を受けて、様々な団体と協力し、被災者を支援しました。



(写真左) バハマ島のコレラ予防キットの配布など、緊急におこなわれました。(写真右) 多くの犠牲者がでました。ハイチでは約二十万人が被災。

創立者 ウィリアム・ブース 大将 アンドレ・コックス (万国本営 英国ロンドン) 日本司令官 ケネス・メイナード (救世軍本営 東京都千代田区) <http://www.salvationarmy.or.jp>

発行日 毎月一日・十五日  
発行日及び定価  
定価  
一日号一部四〇円(六六円)  
十五日号一部六〇円(六六円)  
クリスマス特集号(十二月一日号)一部一〇〇円(七七〇円)  
一年分(二六〇円)送料七五〇円  
振替 〇〇一八〇五四四〇〇  
発行兼印刷人 救世軍  
代表者 ケネス・メイナード  
編集人 齋藤 恵子  
〒101-0051 東京都千代田区  
神田神保町二丁目十七  
電話 東京(03)3377-0881  
発行所 救世軍本営  
印刷所 図書印刷株式会社

(取扱支部) 救世軍は、統一協会、エホバの証人、モルモン教ではありません。これらの問題でお悩みの方は、右救世軍にご相談ください。

(この欄に通信文を書くと第三種扱いになりません)